

都市再生整備計画

ふじおかちいきかく
藤岡地域核地区

あいち とよたし
愛知県 豊田市

平成31年1月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	地区名	藤岡地域核地区	面積	8.76 ha
計画期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 平成 32 年度				

目標

大目標：ふれあい豊かで賑わいのあるまちづくり

小目標1：自ずと多くの人が集まる魅力ある場づくり

小目標2：人の集まりやすい交通環境づくり

小目標3：地域活力創出に向けたソフト事業の実施

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

1 まちづくりの経緯

(1) 当地区を含む豊田市藤岡地域(旧藤岡町)は、市の北西部に位置しており、人口は19,731人(H27年4月)である。藤岡地域は豊田都市計画区域に含まれており、その約97%が市街化調整区域に指定されている。当地区は藤岡町の時代から役場(現藤岡支所)が置かれ、また、国道419号と県道瀬戸設楽線が交わる交通拠点として、かねてより藤岡地域の中心街とされている地区である。

(2) 当地区では、旧藤岡町の時代から国道419号と県道瀬戸設楽線の交わる藤岡飯野町交差点改良事業を含めた区画整理事業による市街地の面的整備を検討してきた。しかし、平成18年度に区画整理事業が断念され、以降は個別都市基盤整備事業の組み合わせによる旧まちづくり交付金制度適用の検討を続けていた。

(3) 平成17年度の豊田市との合併に伴い、市の総合計画である第8次豊田市総合計画基本構想(平成30~39年度)において、藤岡支所周辺が「地域核」として位置付けられた。これにより当地区的まちづくりについては、藤岡飯野町交差点改良事業と地域核の整備を中心としたものとして検討を進めていた。

(4) 藤岡地域核整備事業は第7次豊田市総合計画の前期実践計画(H20~24年度)・後期実践計画(H25~29年度)に位置付けられ、藤岡飯野町交差点改良事業の事業化決定(平成24年度)に合わせ、平成25年度から具体な検討に入ることになった。

(5) 平成25年度は、藤岡地域の全世帯を対象としたアンケートを行うとともに、「藤岡地域核整備に関する地域代表者会議」を開催し、住民意向を反映して藤岡地域核整備基本構想をとりまとめた。平成26年度は、更なる住民意向を把握するため、市民ワークショップを開催した。平成27年度は、これらに基づき、藤岡地域核の中核拠点たる藤岡支所・藤岡交流館の基本設計に着手する。

2 現況(計画区域を含む現藤岡支所を中心とした半径1kmの状況)

過去より藤岡地域住民の日常生活を支えると共に、藤岡地域の中心地として栄え、今なお藤岡地域住民の心の拠り所となっている藤岡支所(旧藤岡町役場)周辺は、人口動態や商業者数の減少等の側面から地域活力の低下が危惧される状況にある。

(1) 飲食店や生活用品店等が建ち並んでいた藤岡支所(旧藤岡町役場)周辺は、商業者数が減少を辿り、藤岡飯野町交差点改良事業の進行もあり廃業した商店が並び、閑散とした街並みに変わってきた。

店舗数はH17年の49件からH27年4月現在で32件と17件減少している(▲34.7%)。うち、支所周辺の主要交差点(藤岡飯野町交差点)沿いにある15店舗のうち6店舗(40%)が閉店状況にある。

(2) 当地区は市街化調整区域に指定されており大規模な宅地開発が望みにくくから、少子高齢化と人口減少が進みつつあり、地域コミュニティの衰退が危惧される。

高齢化率はH17年の13.6%からH26年現在で19.9%に上昇(6.3%増)。人口動態面では、H17年の1,716人から1,691人と25人減少。

*高齢化率及び人口動態は、計画区域を含む「藤岡飯野町」の動向を表記。

課題

1 飲食や生活用品を始めとした商業者の進出・起業意欲を高められるような市場性を、地域のふれあいや賑わいづくりの観点から醸成する必要がある。

2 地行政・コミュニティ機能の中核を成す藤岡支所及び藤岡交流館がそれぞれ独立した立地(両施設間の直線距離 約300m)となっていることから、相互の利用者間に交流が無く、利便性も悪い。また、特に藤岡交流館は高台・急こう配の立地であるため、交通弱者等の利用が難しい状況となっている。

そこで、藤岡支所・藤岡交流館を支所敷地において合築し行政関係機関を集約・複合化することで、ふれあいや賑わいから地域活力を創出できる藤岡地域の中核拠点施設として再構築する必要がある。

3 「藤岡支所バス停」は、豊田市の中心街と藤岡地域を結ぶ「おいでんバス」と、藤岡地域バスである「ふしバス」との結節点であるが、支所玄関を簡易待合所としているため施設閉店時は雨風をしのぐ屋根付きのバス待合所がなく、屋外でのバス待ちが発生している。また、バスと一般車両、歩行者の動線が混在しているため、非常に危険な状況となっている。

このことから、地域住民の誰もが、藤岡地域の中心に気軽に安全に往来できるよう、公共交通(バス)やアクセス道路といった交通環境(結節機能)を整えることで、地域住民の往来に係る利便性やアクセシビリティを向上させる必要がある。

4 ふれあいや賑わいづくりに向けた動機づけと、気運の醸成や定着を図るため、地域住民が主体となって活躍し、地域活力の創出に繋がるソフト事業の展開が必要である。

将来ビジョン(中長期)

1 第7次豊田市総合計画基本構想・実践計画

支所周辺を「地域核」と位置付け、「基幹バスによる一定水準の公共交通サービスの確保」と「地域特性に応じた行政・生活サービス機能の維持確保」を図るものとし、その上で、前・後期実践計画事業として支所・交流館の建替えを始めとした「藤岡地域核整備事業」を位置付けている。

2 豊田市都市計画マスター・プラン(H20~29年度)

北部地区の整備方針として「藤岡支所周辺における公共施設の維持・強化」、「公共交通として基幹バス・地域バス等の充実」、「藤岡支所周辺の地域商業機能の維持」や「藤岡交流館の建替整備」等を掲げている。

3 藤岡地域核整備基本構想(H26年3月策定)

「地域活性化に向けたふれあいや交流の場づくり」と「交通結節機能の充実と安全な交通環境づくり」を取組課題として捉え、実施事業として①藤岡支所・交流館の合築②支所敷地内でのバスターミナル整備③支所敷地へのアクセス道路の整備④地域の活性化を促すソフト事業を掲げている。

4 地域ビジョン(藤岡北部・南部の2地区で作成)

(1) 藤岡地区まちづくりビジョン：「ひとりひとりが夢を持って活躍できるふれあいのまち(教育)」、「美しい川と里山に囲まれ、地域で支えあう安心安全なまち(環境)」、「地域資源を活かした、持続可能な活力あるまち(地域活性化)」としている。

(2) 藤岡南地区まちづくりビジョン：「安心・安全なまち」、「生涯活き活きと人が輝くまち」、「自然や地域を活かした魅力あるまち」としている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基 準 年 度	目 標 値	目 標 年 度
支所・交流館の利用者数	人／年	支所・交流館の年間利用者の延べ人数	ふれあいや交流促進を目的とした交流施設の整備効果、賑わい創出	84000	H26	100000	H32
バスの利用者数	人／年	「藤岡支所」バス停の年間乗降客数	人の集まりやすい交通環境づくり(公共交通の利便性向上)の一環で	80000	H26	90000	H32
まちづくりイベントへの参加者数	人／年	地区内のまちづくりイベントへの年間参加者数	地域活力の創出を目的に実施するソフト事業の実施効果を、事業参	7000	H26	17000	H32

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
1:支所・交流館等の合築による拠点整備 現在は独立した立地であり、地域中核拠点としての機能を果たしていない支所、交流館を合築するとともに、商工会、観光協会等の行政関係機関を集約することで、行政サービスの利便性を向上し、地域のふれあいと賑わいを創出する。交流施設(交流館)は、市民ニーズを反映し、自ずと人の集まる魅力ある施設づくりを推進する。生涯学習や交流を目的としたこれまでの施設運営に加え、企業利用の制限を緩和し、企業にも開かれた施設利用を図る。	【基幹事業】 (高次都市施設)藤岡交流館整備事業 【提案事業】 (事業活用調査)事業効果計測調査 【関連事業】
2:アクセス道路・バスターミナルの整備 公共交通の結節点として、地域中核拠点へのアクセス道路を整備することにより、高齢者や子どもを始めとした多くの市民が、安全・安心に中心地へ往来できる交通環境を整備する。同時に、一般駐車場やバス、歩行者の接触事故を未然に防ぐため、安全性の高いバスターミナルを整備するとともに、待合機能等の充実を図ることで、誰もが安心して、気軽に中心地に集まる環境を整える。	【基幹事業】 (道路)市道藤岡田中二反田線整備事業 【提案事業】 (地域創造支援事業)バスターミナル整備事業 (事業活用調査)事業効果計測調査
3:地域活力の創出に向けたソフト事業の実施 魅力ある施設整備や往来しやすい交通環境整備によるハード面での賑わいづくりを補完し、衰退しつつある地域コミュニティや地域活力を内発的に再生し、ふれあいや賑わいを創出するため、地域住民が主体となって活躍できるソフト事業を実施する。 具体には、現藤岡交流館敷地内で藤岡おいでん夏まつりや藤岡地区スポーツ大会、藤岡飯野夏まつり等の実施に加え、現支所敷地(支所・交流館合築	【提案事業】 (まちづくり活動推進事業)朝市等による賑わい創出事業 (事業活用調査)事業効果計測調査 【関連事業】 ・ふじおかおいでん夏まつり

その他

- 事業終了後の継続的なまちづくり活動
 - ・事業期間終了後も継続的なまちづくり活動が行われるよう、観光協会やコミュニティ会議等と連携を図り、地域のふれあいや賑わいづくりに向けた事業を企画・実施して行く。その他、地域を内発的に活性化できる自主活動団体等を育成しながら、自立したまちづくりを推進して行く。
- 交付期間中の計画の管理について
 - ・各種事業は、HPIにより広く市民に周知する。
 - ・また、中間評価・モニタリングなどを実施し、事業の進捗状況や成果を把握し、事業の円滑な執行を管理する。

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	585	交付限度額	233.6	国费率	0.4
---------	-----	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路	地域核アクセス道路	市道藤岡田中二反田線	豊田市	直	-70.0m、W-9.5	H28	H32	H28	H32	110	110	110	110	110	
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設															
高質空間形成施設															
高次都市施設		藤岡交流館整備事業	豊田市	直	交流館A-855.86m ² 及び駐車場	H27	H31	H28	H31	466	466	466	466	466	
中心拠点誘導施設															
連携生活拠点誘導施設															
生活拠点誘導施設															
高齢者交流拠点誘導施設															
既存建造物活用事業(高次都市施設)															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
パリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地	拠点開発型														
総合整備事業	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										0	576	576	0	576	
															統合したB/Cを記入してください

統合|左BCE登記入|アシダカ

提案事業(継続地区の場合のみ記載)

合計(4+5) 500

(参考) 開連事業